

Aの人は穴埋め一問くらいしか間違っていなかった。記述が大事みたい。Bの人は、資料書き写ししている人。自分の考えを表現してほしいということ。それを忘れてもらっては困る。他人の文章をそのまま丸写しをしてはいけない。それは大事なことでさ。自分らしい答えを作ってくること。

先生はマック派か・・・

環太平洋の歴史

ヨーロッパがだんだん出てくる仮定を話した。今学期は16～18世紀の話。春学期は紀元前から幅広い話をしてきたので。

- ・大西洋世界の変容（16～18世紀）

ー先学期（紀元前～16世紀）

- ・想像力の中の大西洋

現実的なものになってゆくという家庭を先学期では話した。

- ・現実化する大西洋（イタリアのジェノバの商人とかが大西洋進出、それに乗じていろんな人が、コロンブスとか・・・）

今学期の出発点は、イギリスやフランスなどの他の国も出てくるところから。植民地獲得とかの話からね。カリブ海にあるジャマイカをイギリスが持っていたりね・・・

今回のポイントになるのは海賊らしい・・・イギリスの海軍の役割をしていた時代もあった。

その後、アメリカがどうかやる。その後は交流を続けているうちに、政治的な影響を受け合う。アメリカ独立の影響がヨーロッパとかいろんな地域に波及する。そんなことをやる。これが最後にやること。

ー今学期：現実化した大西洋世界

- ・相互影響と変容

- ・新たな経験…大西洋の登場によって、人間の考え伊方が変わってゆくのではということ。海賊にはいろんなイメージがあるのだが、彼らの仲間意識は独立運動の源泉になっている。海そのものがどのような経験をもたらすのか。難しい話ね。

これがだいたいの流れ。適当に書きちゃったな。13回ちゃんと授業がある感じ。4つのテーマ。スペインの植民地・奴隷、海賊・密輸、革命戦争独立って感じ。

今学期からは授業の前に資料をアップするってさ☆やたあ(^_^)

アドレスはkeio.jpでね。教育支援システムの中にある。

質問はメールで。taquito@z2.keio.jpまで！！2～3日で回答します。

本題に入ります。

人間にとって海はどのような役割を果たしているのだろうか。

海の役割

- ・想像力としての海（海にはどのような生物が住んでいるのか・・・？海の向こうには何があるのだろうか？とか空白状態の中の想像力）

- ・恐れや希望を投影する場所…日系移民は農村の次男三男（長男しか家継げない）はアメリカに

行くと自分の農場がもてるという宣伝に魅せられ渡っていった人たち。行くと現実は一変して・・・
つまり海の向こうには何かいいものがあるのではないかという希望をよく描く。

・ユートピア・マス・モア（イギリス）…ユートピアという本を書く。これはギリシャ語で「場所じゃないところ、つまりどこにもない場所」とかいう意味。存在はしないけれども、理想として存在する場所を考えようということ。もう一人、シェークスピア。そして計画都市。ヨーロッパの人はよくこれを想像する。アジア人は桃源郷みたいなものなんだけど、そこはやっぱり人間の考え方の違いを表しているのかなぁ。

・→陸からみた海—陸地人のイメージが投影

・資源としての海

・生活の糧を与えてくれる→日常生活の次元（オランダは塩をゲットするために大西洋進出を試みた。取引を断られたので）

日本人も真珠や海鮮物などの資源がある。

・経験としての海…海で生きることが人間にどのような影響を与えるのだろうかということ
今学期の課題。先生も考え中。

・持続的な経験：海で生活する人（海賊や兵士、旅人）→海の感覚が生活の基礎

兆候的（海の危険を知らせるサインを

読んで先に怒ることを予想する能力）、体感的

・一過性の経験：陸に生きる人々（旅行者）

・大西洋の登場によって経験者が増大すること

・交通としての海…単に交通手段ではなく、コミュニケーションがあるということ。いろんなレベルの交換があるということ。

・海の媒介性：離れた世界がつながる—政治的、経済的、社会・文化的、生物学的

「つながる」＝相互関係・影響

イギリス・アメリカの関係なんて例に取ると、二次戦以降、外交関係は同盟に近い状況となっていたり、イギリスからアメリカへの移民がいておじいちゃんがイギリス人だとするとちょっと訪ねてみようかなという社会的つながりとか、そういうものね。

つながることによって、交換を促進してゆく機能が海にはある。

・海の交換性—物質の交換（貿易とか、ヨーロッパにポテトやトマトなどをもたらした）

アメリカからカカオやポテトがヨーロッパに。ヨーロッパからは肉を焼いて食べる文化。牛肉とかね。バーベキュー。

—思想的交換（これは相互交換）

—生物学的交換

・コロンブスの交換Columbian Exchange

これらが全体的な見取り図。

関係としての大西洋：スペインとポルトガル

・スペイン—カナリア諸島＋アメリカ大陸

・ポルトガル—マデイラ、アゾレス諸島、西アフリカ、ブラジル

スペインは新大陸に重点を置いているのに対して、ポルトガルはアフリカなどに重点を置いていた。別々に展開してゆくので、交わることはなかった。もともと仲がよくなかったし。スペインは

ポルトガルの貴族が独立して作った国なので仲がそんなによくないらしい。

→近代最初の「海の帝国」の出現

スペインの植民地経営

・新大陸の富を獲得（生産）ポルトガルは取引で金とか獲得しようとしたが、スペインは生産重視であった。しかし、はじめは略奪してしまう。その後生産になる。

略奪→生産（略奪し続けると住民がいなくなるし、余地がなくなってしまうので）

スペイン人が直接生産するのではなく、先住民を使って作らせたり、金山などを掘らせたりした。

・獲得した富をスペインに輸送（流通）

現地で生産して現地で使っていてはスペインは儲からない。なのでどのようにしてスペインに流れるようにするか考えられていた。

ー護送船団、他国の排除 護送船をつけることで他国を排除し、スペインだけに富が流れるように取りはからった。スペイン人しかアメリカに行けないようにしたりして規制していた。